

[エッセイ 特別編： 小泉純一郎氏とお会いして]



何だろう、このインパクトは！？ 何だろう、この清々しさは！？何だろう、この魅力は！？

何度かご一緒させていただいて、一献を傾けながら、本当にたくさんのジャンルにわたる様々なお話を伺ったあと、毎回のように感ずる思いであった。

「“変人”と言われるけど、僕は自分では“常識人”だと思っている」との言葉に、思わず「私もそう思います！」と図々しくも返してしまった。小泉純一郎氏を「変人」と名付けたのは、小淵氏、梶山氏、小泉氏の三氏を並べて、「凡人、軍人、変人」と（恐らく一種の愛情も込めて）ノタマワッタ田中真紀子さんであるそう。

私は、政治家という職業、あるいは肩書を持っている方たちをほとんど知らないし、お会いしたことがない。一般の人たちと同じように、TV の画面からの印象ばかり

だが、永田町を闊歩しておられる方たちは、私の目には「変人」に映り、小泉氏は本当に「常識人」、あるいは「普通の人」という印象を受ける。、エルゴ、「永田町の変人」は、普通の人？！

少なくとも、我々普通の市民、都民、国民と、普通に普通の話ができる方。そういう人が“珍しい”と言うのが、まったくもって妙な政治の世界だ。

総理大臣を2期務めあげた後、あっさりと政治家の道から現役引退をした、つまり選挙に出馬しなかった議員は、今まで誰もいないと聞く。いつまでも権力にしがみつき、“先生”と呼ばれたい人たちから距離を置き、小泉純一郎氏は一人の人間として、現在、その人生を謳歌している。

昔の世界に何の未練も残していない。人に何を言われようと、なんと言われようと気にしない。政治家としての野心も、妙な“イロケ”も過去に置き、ご自分としてはすべてやり尽くしてきたという思いが、この爽やかさに繋がっているのだろう。日本の総理大臣として世界中を訪れながら足跡を残し、現役引退後は日本全国を巡って講演を行い、取材やインタビューで心のうちを述べ、本を書き、今現在は、もう枠にはまることも、はめられることもなく、人生をおおらかに享受していられるその姿には圧倒される。 圧倒される、というのは、人生を素直に“奔放に”過ごしていられる、そのエネルギーだ。健啖家でお酒を愛し、息子たちからさえその体力を感嘆される小泉元首相は、

現在82歳！好きな時刻にヴァイオリンの音色に包まれて眠りにつき、好きな時刻に起床し、好きな音楽や本に囲まれながら、好きなコンサートを訪れる。たまにはゴルフをし、気に入った人たちとの美味しい食事を満喫し、権力にも贅沢にも興味を持たないその人から溢れる、人生へのエネルギー。

お会いする度に、もっともっといろいろなお話を伺いたい、と思ってしまう。政治に関しては、おそらく今でもきつと外に出してはいけない話もおありだろうが、何しろ音楽についても、映画についても、大石内蔵助に代される歴史の本のこと、作家のこと、子育てについてなどなど話の泉は尽きることがない。

ハンセン氏病問題との向き合い方や北朝鮮の拉致問題への対し方、また原発への間違いを認められる勇気の潔さ、政治を我々の身近なものとして感じさせたその話術。でもなによりも、それらが首相や政治家としての“ポーズ”の一面ではなく、小泉純一郎氏そのままの姿だった、ということが、今現在お会いしても伝わってくる。日本にこんな政治家がいたという感慨、そしてこんな政治家なら、(イデオロギーや大衆の個人的な好き嫌いは別として)、私たちに、いい意味で政治を身近に感じさせてくれるだろう、という「再来・小泉」への期待、私の中に本当に様々な思いが湧き上がる。てらいのない“素”の、ごく普通の小泉氏に触れた人たちは皆、「なんて素敵な人でしょう！」というのだ。多分、信じない人たちも多いかもしれないが、この政治家の“普通さ”を皆さんが知らないのは、ホント、もったいないと思う。そして多くの政治家の皆さん、引退されても、こんなに楽しくすばらしい人生の過ごし方があるのですよ、と声を大にして言いたい！

P.S. “未練”はないとは言え、もちろん、小泉氏は現在の自民党の状況を大変憂えている。悲しんでいる。